

浦上キリシタン流配150年(2018~23)

ニュースレター



今年も非公開 乙女峠で野外ミサ

鹿児島教区の中野裕明司教を迎え、新型コロナの勢いが収まらない中、白浜司教、山根・大西・朴(パク)の各神父ほか神父7名そして信徒は地元津和野教会と有志の方々60名程の参加で非公開の野外ミサが行われました。なお鹿児島教区は大阪教会管区以外では唯一四番崩れの流配地がある教区で、375名流配し53名も亡くなりました。以下中野司教の説教の概要です。来年は補修の終わった津和野教会から出発して乙女峠に徒歩巡礼し、野外ミサが捧げられるようにと強く願う5月3日でした。



■初めに。私たちは戦後の憲法20条で信教の自由が明記され、信教の自由を享受しています。

「殉教者の流した血は教会の種である」との言葉が有ります。乙女峠の37名の尊い命が神に捧げられたからこそ、私たちはその信仰の恩恵を受けていることを思います。ここに捧げられた37名は亡くなった沢山の方々の代表です、亡くなったこの方たちから私たちは何を学ぶことが出来るだろうかと言うことを三つの視点から分かち合いたいと思います。

■一つ目は「信仰の語り部になる」ことです。長崎では〈旅〉と言われますが、流配された方々は家族毎に流されました。初めはリーダーだけ流しましたが、諸外国の「家族と離すのは残酷だ」との反対に遭って、その後は家族毎の流配でした。家族で励ましあい、信仰を語りついできたと思います。流配者は250年間の潜伏時代をずっと語りついできました。この語り継ぐということは、別に流配者が特別ではなく、聖書自体がそう(語り継ぐ／言い伝え)ですから、世代を超えて語り継ぐ…神の技の語り部です、それが(津和野の証し人の)家族の中でも営まれてきたということが、まず私たちの教訓だと思います。

私たちの時代は生活が個人化し、家庭が有ってもその共同体性が薄らいできています。便利な時代で共同体を作るのは家族でも難しい時代です。家庭の中で信仰を語り継ぐことを学びたいと思います。日本国民はカトリックが少ないので難しいけれど、信徒の皆さんは信徒でない家族にも神の愛を实践すべきだと思います。現代の流れとして今だけ自分だけお金だけという風潮が蔓延しているとの指摘も有り私たちもそのように流されそうですが、信仰の語り部というのは、私たちが頂いた信仰をどう伝えていったら良いか教えてくれると思います。

■二つ目は「信仰は永遠の命を得ることが出来る」ということです。成人洗礼の入門式の問答の中で入門者は「信仰は永遠の命をもたらします」と答えます。信仰は永遠の命を与えるということを学びます。私たちは教会運営に力が入り、純粋に信仰を求めているのか疑問に思うことが有ります。「信仰は永遠の命を与える」という単純なこの中に、カトリック信仰の一番の核心が有ります。それを素直に実行したのが津和野の証し人であるということです。信仰に永遠の命を求めている人は、犠牲の精神が有ります。犠牲とは生贄(神への供え物)になることです。

無償の愛の証しです。相手のために自らは損をすることです。この精神が今は価値のないものとされています。正しいことを責められる、そのことも(津和野の)証し人は明らかにして下さいました。それも嫌々でなく、天国を見つめ神の言われることだからと、強い心で。十字架を背負い私に従いなさいと主は言われていますから、自らの十字架は他人に負わせないで、出来れば人の十字架も背負ってあげて、イエス様と共にゴルゴダの丘を歩んでいきたいと思ひます。

■三つ目です。今年はヨセフ年(2020.12.08～2021.12.08)です。150年前聖ヨセフを、父の心で幼子イエスを死の危険から守ったことになり、普遍教会の保護者として宣言しました。150年前(1870年)は第一バチカン公会議(1869～1870 普仏戦争勃発で中止)で、近代科学や理性と信仰の問題が議論され、カトリック信仰を惑わす思想が増えていました。教皇はそれも含めて教会を聖ヨセフに委ねました。その次に家庭の年ですね。一年間家庭の喜び(意味)を黙想することが呼びかけられています。聖家族(ヨセフ、マリア、イエス)の徳を学ぶようにと教皇は言われています。



大西神父、中野司教、白浜司教、朴神父、山根神父

流配者は家族で流され、家族で信仰を伝えてきました。

■最後に鹿児島教区の事情をお話しします。奄美大島地区や徳之島地区には島々があり、44の教会・巡回教会があります。限界集落で人が少ないので建物の維持が困難化しています。これからそれを信徒の皆さんと話しますが、一つのポイントは、家庭教会もあった様に、「教会堂が無くても信仰は家庭(社会の最小単位)で守ろう」と。迫害時代は教会堂を建てられなくて、信徒は家庭に集まってミサをしていました。それを考えると、信教の自由で宣教師も来て教会も沢山出来ましたが、司祭も少なくなり信徒も少なくなってきた、建物だけ残る。でも教会とは共同体です。信仰を保つためには小さな単位(家庭)に戻しても可笑しくないと思ひます。信徒の皆様にも考えを切り替えるようお話ししています。その意味で、ヨセフ年に家庭も併せて考えて欲しいと考えています。これからも乙女峠まつりを続けて行って欲しいです。日本を代表してこのような巡礼地があることは、心の支えになっていると共に、信仰を鼓舞するうえで素晴らしいことと思ひます。

津和野・乙女峠証し人

列聖運動はどう進んできたか

列聖運動の始まりから今日までの8年間の歩みを振り返り、列福式を迎える日を思い浮かべながら37人の証し人に祈りを捧げていきましょう。

列福・列聖へ向けて一歩ずつ

【2013年度】

- ・2013年5月3日…前田司教が「乙女峠まつり」で津和野・乙女峠の証し人列聖推進を初めて表明。～福者祭百寿までにと風光る～(前田司教) 教区創立90周年(2013年)を機に、乙女峠の証し人たちの列聖運動を正式に始め、百周年迄には少なくとも列福を実現させると前田司教は決意されました。今回の取組はこれまでと違い、広島教区単独で申請作業を行う、日本の教会で初めての取組です。前田司教の決意表明を受け、列聖調査を始める

目的で同日「広島教区 列聖運動推進部会」を設置し、早速活動を開始しました。

- ・2014年3月17日…「津和野の証し人の列聖を求める祈り」を定め、祈ることとしました。

【2014年度】

- ・2014年9月23日…前田司教、大阪教区大司教に着座。以降担当司教不在(司教座空位)となり、公的諸手続きは進められず中断となりましたが、教区なりの活動は進めていきます。
- ・2015年1月18日～5月3日…乙女峠の「記念碑レプリカ」を教区内全小教区で巡回。
- ・2015年1月12日…列聖運動への理解を求め「広島シンポジウム」開催。約4百名参加。
- ・2015年3月8日…広島に続き「長崎シンポジウム」が開催され、3百名程参加。

【2015年度】

- ・2016年1月22日…大阪教会管区司教会議で列聖意義を説明、理解を得られました。

【2016年度】

- ・2016年9月19日…白浜 満被選司教叙階着座。諸手続きが是で再開されることになります。

【2017年度】

- ・2017年10月…広島教区と教皇庁列聖省に対して列聖審査開始申立の原告となるため、「明治初期・津和野の証し人列聖推進協議会」を法人(修道会・宣教会)とその他団体・個人有志で発足させました。
- ・2018年1月…「浦上キリシタン流配150年(2018～23)ニュースレター」創刊。広島教区内外への、浦上四番崩れからの150年と津和野・乙女峠証し人の列聖運動周知を願います。

【2018年度】

- ・2018年5月2日…「浦上四番崩れ流配地連絡会」が、津和野乙女峠まつりを翌日に控えた2日、山口に於て全国の流配6教区と浦上教会の代表者の方々を集めて、初めて開催されました。
- ・2018年5月3日…乙女峠まつりで〈浦上キリシタン流配150年(2018～23)〉の開始を宣言。流配開始から長崎帰還までの5年間を祈りの内にすごすように。
- ・2018年6月18日…「明治初期・津和野乙女峠の証し人列福祈願ミサ」がカテドラルで行われ、2023年教区創立百周年迄の列福を願いました。
- ・2018年7月…列聖調査開始には司教協議会に諮ることが必要とされているため、7月の臨時司教総会に諮り、教皇庁への列聖調査開始の承認願提出について同意されました。
- ・2018年7月18日…白浜司教が教皇庁を訪問、列聖調査開始の承認願を提出しました。
- ・2018年7月22日…「浦上四番崩れ旅の始まり150周年記念」が浦上教会主催で行われ、全国の流配地関係者を集めシンポジウムや記念ミサが行われました。
- ・2019年1月～…平林神父(列聖運動推進部会/イエズス会)が列聖省主催の列聖手続きの研修会に参加し受講、帰国後同部会で今後の手続きや作業の進め方について協議しました。
- ・2019年2月5日…列聖調査開始の許可を付与/許可書が列聖省長官から広島教区白浜司教宛に届きました。「アントニオ・マリア深堀和三郎と、その36人の同志の男女信徒たちの列福、すなわち神のしもべたちの殉教の宣言の手続きに進むことに対して、聖座にとって何の妨げもありません。…守るべき規定に従って、調査を進めることができます」と書かれています。〈文面/福山教会報2019.6抜粋〉教区としては今後①列聖調査開始の公示、②「列聖調査委員会」の設置、③列聖調査開始宣言ミサが必要と確認しました。

【2019年度】

- ・2019年…列聖調査開始を公示/4月7日付け「カトリック新聞」、4月21日付け「広島教区報」、長崎教区「カトリック教報」8月号。なお、公示には次の項目が含まれます。

列聖調査開始宣言ミサ案内、列福(列聖)の意義説明、賛否意見公募、資料提供や献金の依頼。

- ・2019年5月3日…**列聖調査開始を宣言**／津和野・乙女峠まつり野外ミサにおいて、列聖調査開始が宣言されました。大阪教会管区のすべての司教と補佐司教の7人に加え、遠く札幌教区からも参列。なお浦上教会からは久志神父が参列。これで公式に調査が開始出来ます。
- ・2019年6月11日…「**津和野・乙女峠の証し人列聖調査委員会**」を設置。委員会設置に伴い、会議は今後「**列聖運動推進部会**」も兼ねて行なうことになります。

【2020年度】

- ・2020年7～10月…**津和野・乙女峠の証し人の列聖声望調査**／列聖調査を進める手続きの一つとして、流配地を中心に地域的にも幅広い40名(司教6名、司祭10名、修道者11名、信徒13名)の方々から、列聖を期待する証言の聞き取りを行いました。

【2021年度】

- ・今後の作業／これまでの歴史的調査と40名の証言をもとに、神学的考察を行い、津和野の証し人の死が殉教であることを裏付ける神学部門の文書作成準備に入ります。

～資料:百年史編集委提供～

広島教区に まだ知られざる福者！…

ゴンサロ・フサイ(備前) フアン^{ちゅうごく}中国(山口) レオン 中西(山口)
～日本205福者の中の方達～



1867(慶応3)年7月7日に、ローマ教皇ピオ9世は日本の殉教者205名を列福しました。日本二十六聖人の列聖が1862(文久2)年ですから、その5年後の話になります。徳川幕府禁教令下で迫害を受け、1617～32年に迫害を受け殉教した宣教師と信徒です。

各修道会が調査を進め、司祭・修道士・牢内誓願の方たち(内日本人39名)計80名と信徒125名(内日本人104名)が列福されましたが、その背後には多数の一般信徒の殉教があったことを忘れてはなりません。

広島教区内にも少なくとも次の3名の福者がおられます。列福以降154年経っており、列聖を祈る上でも早期に公式な冊子を発行し、日本の教会で共に列聖を祈ることが出来るように望んでいます。

1. **ゴンサロ・フサイ(扶斉)**…備前国生まれで武家でしたが受洗し、長年イエズス会管区長の同宿でした。1年間霊的指導を受け、イエズス会修道士として1622.9.10殉教の冠を得て人生を全う。
2. **フアン^{ちゅうごく}中国**…フアンは山口出身です。朝鮮の役に参加し、のち有馬に住み20才で受洗、宣教師たちの世話をしていた捕らえられ大村の牢に入れられました。死刑の暫く前に誓願を立て、イエズス会修道士として1622.9.10殉教しました。
3. **レオン中西**…43歳になっていた山口出身のレオン中西は、兵卒でしたが長崎に移りそこで受洗しました。1619.11.27他の10人と共に斬首され、死体は海の深みに沈められました。

以上、新カトリック大事典(2002 研究社)及びスクルース神父の福者録より。

《発行：広島教区 殉教地・巡礼地ネットワーク 事務局》